

自分で考える子を育てるには？

本プログラムのねらい	期待される効果
○子供の活動や持ち物、家庭でのルールなどの決め方を振り返ることにより、保護者として適切な関わり方をしようとする意識を高めることができる。	○子供の甘えやわがままに振り回されたり、すべて保護者が決めてしまったりする 生活を見直す ようになる。

活動の主な流れ	運営上の留意点
1 オープニングプログラム「⑤出身地で地図をつくらう」などを行い、3~4人グループをつくる。(15分)	・ワークシートを配布しておく。 ▶「オープニングプログラム」(CD版)参照
(例) 今回は、子供の持ち物や家庭でのルールの決め方について一緒に考えてみたいと思います。その前に、簡単なゲームをしましょう。	
2 ワークシート1・2を記入し、グループ内の意見を聞き、感想などを話し合う。(40分)	・時間に合わせて、事前にワークシートの項目を減らして行ってもよい。
(例) ワークシート1をご覧ください。項目の①~⑯には、子供の活動や持ち物、家庭でのルールなどが書かれています。みなさんの家庭では、主に誰が決めていますか？「現状は？」の欄に○をつけてみましょう。また、理想としては誰が決めたらよいと思いますか？同じように「理想は？」の欄に○をつけましょう。	
➡ ワークシート1に「○」を記入する。(5分)	
(例) ※ほぼ全員が書き終えたことを確認してから「理想」と「現実」を比べてみて、気付いたことはありますか？ワークシート2の欄に気付いたことを書き込んでみましょう。	
➡ ワークシート2に記入する。(5分)	
(例) ※ほぼ全員が書き終えたことを確認してから同じグループ内の話を聞いてみましょう。みなさん、それぞれ状況や実態が違いますので、「相手の話を受け止める」ことを大切にしながら、情報交換をしてみましょう。	
➡ グループごとに話し合う。(30分)	
3 グループごとに発表し、印象に残った言葉などを、ワークシートに書きとめる。(5分)	・状況に応じて、文部科学省の家庭教育手帳「子どもの言うことを何でも聞くことが、親の優しさとは限らない」、「自分で考え、自分で行動できる人に育ててほしいなら」などから選んで読み合わせる。 ▶「エンディングプログラム」参照
4 アドバイス・ヒント資料(CD版参照)などを全体で読み合い、自分で考え自分で行動できるようにするにはどうしたらよいかなどについて、考えたことをワークシート等を書く。(5分)	
(例) 今日の話合いや資料の中で、印象に残った言葉があれば書きとめ、これからの家庭での関わり方について考える材料にしてください。	